

草木染ってどうやるの？

- 1 染める植物を用意します
- 2 染液をつくります
- 3 布を染液に浸します

染める布の重さと同量の重さを目安に染材を準備。

鍋に水を適量入れ火にかけ煮立ったら弱～中火にし、20分以上煮出す。染材は不織布などに入れるとよい。

予め水に浸けておいた布の水気を切り、染液に入れる（綿は事前に濃染処理を施す）。染まり具合をみつつ弱火で20分を目安に煮る。

- 4 媒染液に浸します
- 5 乾かします

染液から布を引上げ水気を切り媒染液（アルミ・灰汁・鉄）へ浸ける。染まり具合をみながら、さらに濃くしたい場合は、再度、水洗い→染液を繰り返し様子を見る。

水洗いをしてから日陰に干す。

ビジターセンターへの
展示風景



今回実施した手順は次の通り。上記①～④を基本手順とし、染まり具合により、③～④を繰り返して染めた。

濃染処理ってなに？＜綿の場合＞

布は素材により植物色素による染液に染まりにくいもの、染まりやすいものがあります。絹（タンパク質）は染まりやすいのですが、綿（セルロース（多糖類））は染まりにくい為、事前に濃染処理を施し染まりやすくします。濃染処理剤としてよく使われるのが豆汁ですが洗濯用柔軟剤もよく染まります。

処理方法は、事前に水に浸けておいた布を適量の濃染処理剤を溶かした液に浸します。なお濃染処理剤は濃淡のないようよく混ぜ合わせましょう。

媒染ってなに？

発色をよくし、色落ちを抑えることを目的に、草木の染液で染めた布を金属イオンの液に浸します。+の電気を持つ金属イオンで、布と色素の結びつきを強くします。草木染では、鉄やアルミニウムなどが媒染剤として使われます。

●アルミニウム媒染
焼みょうばん（硝酸アルミニウムカリウム）を使用。

●灰汁媒染
樹木を燃した灰を使用。

●鉄媒染
錆びた鉄クギをお酢に浸けるなどし、媒染液をつくる。

●無媒染
媒染をしない。

謝辞

草木染指導および染め実験のご協力、本企画立案のきっかけをいただいた中村美喜子さん、染め実験および本号掲載の染め作業をビジターセンター職員とともに行ってくださった望月葉子さんの両氏に深く感謝を申し上げます。

参考文献 「自然を染める 植物染色の基礎と応用」 木村光雄・道明美保子著（木魂社）、「かんたん染色 天然染料の手引き」北川一寿（染織と生活社）、「草木染大全」真輪直子著（誠文堂新光社）、「新版草木染 四季の自然を染める」山崎和樹編著（山と溪谷社）、「日本の野生植物 木本Ⅰ」佐竹義輔ほか編（平凡社）、「日本の野生植物 木本Ⅱ」佐竹義輔ほか編（平凡社）、「山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花 離弁花 1」茂木透写真 石井英美ほか解説（山と溪谷社）、「山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花 離弁花 2」茂木透写真 太田和夫ほか解説（山と溪谷社）、「山溪ハンディ図鑑 5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物」茂木透写真 城川四郎ほか解説（山と溪谷社）、「虫こぶハンドブック」薄葉重著（文一総合出版）、「虫こぶ入門 増補版：虫えい・菌えいの見かた・楽しみかた」薄葉重著（八坂書房）

ビジターセンター バードピア 浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料：無料
- 開館時間：9:00～16:30
- 休館日：毎週水曜（祝日の場合は翌日）と年末年始（12/29～1/3）

木工体験館

気軽に木工を楽しむことができます。工具はそろっているので、手ぶらでお立ち寄りください。

- 木工：金・土・日
- 開館時間：9:00～16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
- 休館日：月・火・水と年末年始（12/29～1/3）
- 問合せ：☎ 053-583-1559

Shizuoka Pre.Forest Park 静岡県立森林公園季刊誌



静岡県立森林公園

〒434-0002 浜松市浜名区尾野 2597-7
☎053-583-0443 FAX 053-583-2700
http://kenritsu-shinrinkouen.jp/



2024
夏

森の色つてどんな色？ 草木染で見る森の姿

植物の葉や枝、根、実などを煮出してできた染液に、布を浸して染めあげる。自然のめぐみを色で楽しむことができるのが草木染。「森林公園に生える主な草木を染めて並べてみたら、どんな色のハーモニーがうまれるのかしら？」素朴な疑問からうまれた企画。森の管理作業で出た草木を有効活用して、草木染に挑戦してみました。管理作業で出た草木なので、ふつう草木染では材料とされない種も染めています。本誌2号にわたりご紹介します。



冬 青
そよご

餅躑躅
もちつつじ

小葉莢蒾
こばのがますみ

瓜 楓
うりかえで

赤 松
あかまつ

粗 櫟
あらかし

山 桃
やまもも

藪 紫
やぶむらさき

青文字
あおもじ

野茉莉
えごのき

馬酔木
あせび

榊
さかき

姫 榊
ひさかき

夜叉五倍子
やしやぶし

五倍子
ふ し

冬 青

Ilex pedunculosa
モチノキ科モチノキ属 ソヨゴ

■染材：葉。朱色系の色に染まる。最初の煮出し液は捨て、再度水から煮出し、1週間置いた液を、再々度煮出し染液とした。
■常緑小高木。葉を火であぶると膨れて弾ける為、別名フクラシバという。アカマツ林に見られる。



灰汁媒染（柔） 鉄媒染（柔）



粗 榧

Quercus glauca
ブナ科コナラ属 アラカン

■染材：新葉。一度染めた布を数日後に再度染液を作って染めた。鉄媒染では、青味強めのアーングレーに染まった。
■常緑高木。堅果（どんぐり）は一年成。雌雄同株。4～5月に雄花序が垂れ下がりその上に雌花序がつく。ヒメカギバアオジャクという蛾の幼虫の食樹。



アルミ媒染（豆） 鉄媒染（豆）



馬酔木

Pieris japonica subsp. japonica
ツツジ科アセビ属 アセビ

■染材：枝と葉。黄味がかったベージュに染まった。
■常緑低木。有毒物質を持つ。花芽は11月ごろから見られ2月下旬には開花する。コソバメという蝶の幼虫が蕾や実を食べて育つ。



アルミ媒染（柔） 鉄媒染（豆）



アルミ媒染（豆）

榊

Cleyera japonica
モッコク科サカキ属 サカキ

■染材：実。明るい赤味のある染液が出たが布はベージュに染まった。鉄媒染はシックなグレーに染まった。
■常緑高木。神事に使われる。



アルミ媒染（豆） 鉄媒染（豆）



←実を煮出した染液。

餅躑躅

Rhododendron macrosepalum
ツツジ科ツツジ属 モチツツジ

■染材：枝と葉。赤味のあるベージュに染まった。
■半常緑低木。静岡・山梨・岡山県に分布。4～6月に咲く花の萼と花柄には腺毛が密生。その粘りで昆虫などを捕らえる。ヤマツツジとの自然交配種はミヤコツツジ。



灰汁媒染（柔） アルミ媒染（柔）



山 桃

Morella rubra
ヤマモモ科ヤマモモ属 ヤマモモ

■染材：樹皮。アルミ媒染ではやや黄色味のあるベージュに染まった。樹皮は「潤み色」に似た深いグレーに染まった。タンニンを多く含む。
■常緑高木。根に根粒をつくり、空気中の窒素固定をする細菌（放線菌類フランキア）と共生関係を持つ。



アルミ媒染（豆） 鉄媒染（豆）



雄花のつぼみ

藪 紫

Callicarpa mollis
シソ科ムラサキシキブ属 ヤブムラサキ

■染材：枝。鉄媒染では青味がかった淡いグレーに染まった。
■落葉低木。実は秋に紫色に熟す。葉に金を蓄積するとされ、金鉱脈探査での活用が期待される。イチモンジカメノコハムシという昆虫が葉を食べる。



アルミ媒染（豆） 鉄媒染（豆）



小葉莢蒾

Viburnum erosum
ガマズミ科ガマズミ属 コバノガマズミ

■染材：枝と葉。とてもきれいなサーモンピンクに染まった。
■落葉低木。4～5月に白い花をつける。赤く熟す核果は酸味と甘味があり小鳥がよく食べる。対生する葉は両面に星状毛、葉裏の脈上に長毛や腺点がある。線形の托葉が特徴。



灰汁媒染（柔） アルミ媒染（柔）



瓜 楓

Acer crataegifolium
ムクロジ科カエデ属 ウリカエデ

■染材：枝と葉。細かく切って煮出した。アルミ媒染では「練色」、現代でいう「生成色」が出た。
■落葉小高木。日本固有種。乾燥気味で明るいところで見られる。園内では尾根沿いなど。紅葉が美しい。春に黄色い花を咲かす。



アルミ媒染（柔） 鉄媒染（豆）



青文字

Litsea cubeba
クスノキ科ハマビワ属 アオモジ

■染材：枝。淡く青味がかったベージュに染まった。
■落葉小高木。岡山・山口、九州、沖縄など暖地が分布域。園内で多く見られるが、本来の分布ではない。早春から咲く花は、切り花としても使われる。枝にはレモンのような香りがある。



アルミ媒染（豆） 鉄媒染（豆）

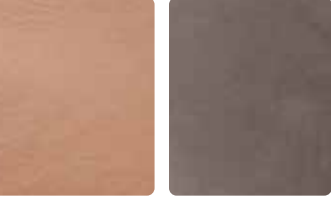


●染めた布 <綿 100%>
布は事前に濃染処理（水に浸しておいた布を、豆乳または柔軟剤を水で解いた液に浸す）。
（豆）：市販の無調整豆乳で濃染処理
（柔）：市販の柔軟剤で濃染処理
●布の重さと同量の重さの染材を使用
■染材：植物のどの部分を染めに使用したかを記載

赤 松

Pinus densiflora
マツ科マツ属 アカマツ

■染材：青い実。赤色の染液が出て布もアカマツの樹皮色を思わせる赤味の茶色に染まる。枝葉では赤味に染まらなかった。
■常緑針葉樹。森林公園の特徴を示す樹木。菌根菌と共生。



アルミ媒染（柔） 鉄媒染（柔）



←青い実を煮出した染液の色。最初ヤニが出るが熱し続けると消える（ただし鍋の縁には残る）。

野茉莉

Styrax japonica
エゴノキ科エゴノキ属 エゴノキ

■染材：花・枝・葉。花ごと煮出した。赤味のベージュに染まった。
■落葉小高木。下向きに開く白い花がすずなりにつく。冬芽は副芽がつき、枝ぶりは節ごとに折れ曲がる。エゴサポニンと呼ばれる毒が果皮に含まれる。



灰汁媒染（豆） 鉄媒染（豆）



染材として煮出したあとの
←エゴノキの花を鉄媒染したところ、花びらが透明感のあるブルーグレーに染まった。

五倍子

白膠木の虫こぶ
ウルシ科ヌルデ属 ヌルデ

■染材：虫こぶ。鉄媒染では、品と深みが感じられる紫味がかったグレーに染まる。タンニンが多く含まれる。古来、お歯黒などに使用されてきた。
■ヌルデシロアブラムシという昆虫がヌルデの木に作らせた虫こぶ。昆虫の刺激で植物組織が変形したもの。



アルミ媒染（豆） 鉄媒染（豆）



矢印の実のようなものが虫こぶ。ヌルデミフシという。